

編集後記

昨今、今年の流行語大賞はこれに決定かのごとく「平成最後の〇〇」や「令和初の〇〇」という表現をよく見聞きしたが、それに倣えば、今号が「令和初の鴟朋」ということになる。

今春は、寒暖が繰り返されたお陰で桜の見頃が続いたため4月6日の入学式前後がピークとなり、我々の目を大いに楽しませてくれた。入学式は中之島にある大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で挙行され、多くの新入生を迎え入れた。当日は天候に恵まれた週末になったためか、1,735名という過去最多の保護者が出席され、遠隔中継会場（パブリックビューイング）にも入りきれなかったという。また、式の模様はYouTube Liveでインターネット中継された。どちらも30年前には考えられなかったことである。

さて、大阪府立大学は、4月1日に大阪市立大学と法人統合を行い、「公立大学法人大阪」となった。入学式翌日に行われた大阪ダブル選挙の結果を受けて、両大学の統合は揺るぎのない既定路線となり、早ければ2022年4月に一つの大学になる。

鴟朋会をはじめ多くの府大卒業生にも喜んで受け入れられるような、より良い大学になるよう教職員が一丸となって統合作業を進めていく所存である。新しい令和の時代を迎え、大学にも新しい光り輝く未来が待ち受けていますように！

(出)

KEKIHO

鴟朋 第28号

鴟朋会ニュース「鴟朋」第28号

2019年7月15日

発行：鴟朋会（けきほうかい）

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪府立大学大学院工学研究科

海洋システム工学分野気付

TEL/FAX 072-254-7461

Email: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

<http://www.marine.osakafu-u.ac.jp/~alumni/>

郵便振替口座番号 00970-7-126500

りそな銀行深井支店 普通口座番号 0060109

加入者名「鴟朋会」



寄稿

巻頭言 //珈琲ブレイク? or 珈琲ブレーク?//

三宅 成司郎 1

卒業生だより

“ユーティリティー”エンジニアを目指して

水上 裕貴 2

同窓会だより

昭和 50 年 府大船舶入学生の卒業約 40 周年の同窓会実施報告

福富 廉 3

表紙絵紹介『南仏コートダジュール』

池島 彊 3

学内情報

山崎先生退職記念講演会・謝恩会

片山 徹 4

山崎先生が教えてくれたこと

池本 昌仁 5

至福の11年を終えて

山崎 哲生 6

新任のごあいさつ

韓 佳琳 7

2018 年度 海洋システム工学分野/海洋システム工学課程

博士・修士論文ならびに卒業論文のテーマ 8

2018 年度修了生・卒業生就職先一覧 10

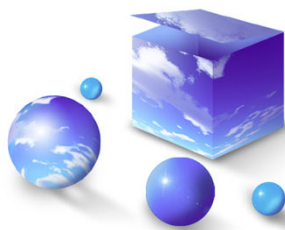
大阪府立大学工学部 鷗朋会 第 67 回理事会報告 11

校友会からのお知らせ 12

鷗朋会からのお知らせ 13

物故者連絡 13

編集後記



◆ 表紙絵 ◆

「南仏コートダジュール」
池島 彊
(大学 1 期)

◆ 表紙デザイン ◆

平岡 良介
(大学 49 期)

「鷗朋」編集委員 岸 光男 (大学 25 期) 竹田 太樹 (大学 30 期) 三宅 成司郎 (大学 30 期) 野口 利仁 (大学 33 期)
池田 和外 (大学 35 期) 有馬 正和 (大学 37 期) 新里 英幸 (大学 44 期) 中谷 直樹 (大学 45 期)
松山 博志 (大学 45 期) 奥村 英晃 (大学 46 期)

巻頭言 //珈琲ブレイク? or 珈琲ブレーク? //

鴟朋編集委員長 三宅 成司郎(大学 30 期)

コーヒーブレイクで良いのかな? コーヒーブレーク? どっち? 文章を書く場合の自分に対しての不文律がある。その第一番目が、「文言が曖昧なときは、辞書を引くこと!」である。よって、早速手元の広辞苑第六版を引いてみた。「コーヒー・ブレーク: 仕事の合間の、コーヒーを飲むための小休憩時間。お茶。」「ブレーク: 休憩。小休止。」となっている。ブレイクは間違っているのではないが、ブレークが一般的なようなので、以後はコーヒーブレークと書こう。

コーヒーブレーク、なんと良い響きの言葉であろうか。その言葉が頭をよぎると匂い立つコーヒーの香りを想像して、まずは心が休憩を欲する。ふと気が付けば、根を詰めてプログラムを作っている。目も頭も指も疲れたし、珈琲を飲みながら小休止しよう。

我が家には、写真のコーヒーサイフォンとミルがある。単にサイフォンと言うが、これはフラスコ(サイフォンの下側のガラス器)内の水をアルコールランプで熱して沸騰させ内圧を高めることで、フラスコと漏斗(上側のガラス器)を結ぶガラス管を通して熱湯を漏斗側に導く。加熱中は、サイフォンの原理にて熱湯が漏斗内に流れ込み滞留する。漏斗内に流れ込んだ熱湯と共にコーヒー粉が十分に対流攪拌した後、火を消すと、漏斗内で珈琲と化した液体がフラスコに戻ってくる。サイフォンは、このようにして珈琲を作る風情のある癒やしの名器である。ウィキペディアによれば、英語で「Vacuum coffee maker」と言うらしい。ニュアンスは確かにわかるが真空ポンプじゃあるまいし、「Vacuum は、ないやろう!」と、つい突っ込んでしまう。

保存瓶から二人分のコーヒー豆を計量し手回しのコーヒーミルに入れて、ゴリゴリゆっくり



と挽いていく。豆が潰される心地よい振動が指に伝わるのと同時に、香りが鼻孔に拡がってくる。これだけでも、気持ちが落ち着いてくる。2 杯分のコーヒー豆が挽き終わるまでに約 5 分。豆を挽き終えてできたコーヒー粉を、フィルターを敷いた漏斗に入れる。フラスコに、水を入れる。火を付けたアルコールランプをフラスコの下にセットする。このランプセットまでの時間、約 2 分。揺らぐランプの火を魅入られたようにじーっと見つめながら、水が沸騰してサイフォン効果が始まるのを待つ。フラスコ内の水が沸騰~サイフォン原理の始動~お湯が珈琲に変化(へんげ)~火を止める~水は珈琲としてフラスコへ復帰。この時間が約 8 分。ようやく、珈琲を飲む体制が整った。この準備に要する総時間が、約 15 分。悠長な時間である。『このコーヒーは苦みとコクやね。』『これは酸味が強い。』と一端(いっぱし)の珈琲通を気取ってコーヒーブレークを楽しんでいる。少し疲れた心と体を癒やしながらの小休止であることは、言わずもがなである。

上記の散文は、巻頭言の体を成しているのだろうか? 巻頭言とはなんぞや? 疑念が頭をよぎる。最後に、もう一度辞書を引く。「巻頭言: 書物や雑誌などの最初に載せる短い文章。」定義から言うと、必ずしも格調が高くなくても良さそうだ。よし、このままでいこう!

広辞苑第七版が、手元に欲しい。そのためには、まずは置き場所を確保しなければ・・・。

広辞苑第七版が、手元に欲しい。そのためには、まずは置き場所を確保しなければ・・・。

(終)

“ユーティリティー”エンジニアを目指して

大学 65 期 水上 裕貴

修士を卒業し、社会人生活も3年目を迎えました。私が現在勤めているのは、東洋エンジニアリング株式会社という国内外で石油化学や肥料製造などの大型プラントの設計から調達、建設までを手がける会社です。大学で二瓶先生のもと洋上風力発電に関する研究をしていた私は、『持続可能な世の中を実現するためには、まずは”インフラのインフラ”から変えてゆかねばならない。技術をもってそれを実現できるのは、プラントエンジニアリング業界だ。』との思いがあり、その門を叩きました。入社後は発電ユーティリティーエンジニアリング部という部署に配属され、火力、バイオマス、太陽光などの発電プラントの基本設計から試運転・性能試験に至るまでの業務を中心に行う傍ら、水・排水処理、冷却塔などといったプラントに欠かせない補機(ユーティリティー設備)全般の設計をもカバーする部署で働いています。他の設計部署とは異なり、扱う対象物の範囲も広く、機器、プロセス、電気、計装制御といった全ての設計分野に精通する必要があり、船舶海洋工学を学んできた身にとっては何もかもが新鮮な毎日を送っています。惜しむらくはどっぷりと海に親しんだ府大での6年間から一転、すっかり陸にあがってしまったことでしょうか。

昨年9月からの半年間は、タイでガス火力発電所の建設現場に出張していましたので、この場を借りて私にとっての初現場について紹介させていただきます。タイでは1990年代より旺盛な電力需要に対応すべく独立系発電事業者(IPP)や小規模発電事業者(SPP)の参入が認められ、それを機に現在も多数の発電所が計画されています。私が出張したのは、タイ政府のSPPプログラムに採択された総出力130MWのガスコンバインドサイクル発電所で、バンコクから車で北へ90分ほど行ったサラブリという町でした。私が現場入りしたのは雨季真っ只中で、土建工事がほぼ終わり、主機であるタービンの試運転準備がちょうど始まるころでした。任務は主機全般の試運転をスケジュール通りにこなすこと。現場では毎日気温35°Cの炎天下(夕方だけ大雨)のなか作業着姿でサイトを歩き回り、何か問題が起きていないか、その日やるべきことが進められているかを確認していきます。こう書いてみたものの、現場

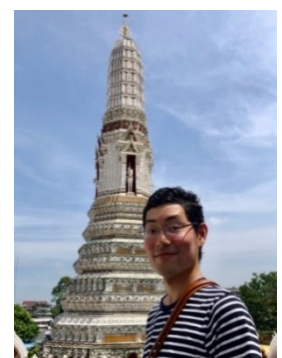
は本当にいつ何が起こるか分からないところ。現場入り早々にしてガスタービン潤滑油ラインのフラッシング(配管内の異物除去)作業中に盛大にオイル漏れが起きる、所内で発電した電力をいざタイ電力網に並列させるぞというタイミングで、客先からタイ電力会社に申請されるべき書類に不備があったことが発覚して待たがかかる、ベンダーから納められた冷却塔ファンブレードに多数の傷が見つかる…など挙げだしたらキリがありません。その度に気難しい欧米主機メーカーのエンジニアと心配性な客先の間をうまくとりもち、大事にならないようにとりなすことが一番多い仕事だったかもしれません。



総出力130MWの現場。そのうち90MWはタイ発電公社に売電、40MWは地域の一般企業に売電されます。

日々七転八倒しながらも、今年3月にはスケジュール通りにプラントを引き渡し、無事に商用運転を開始することができた時には、初現場の駆け出し者ながらも一丁前に感慨に浸っていました。これまで一緒に働いてきた人たち全員が、会社や国籍や立場を超えて歓喜する姿はこれからも忘れることのできない光景でした。

このように初めての現場は場所に、モノに、人に圧倒されることばかりでした。扱う対象も分野も、とにかく幅が広い現職を極めるのは一朝一夕にはかたがたありませんが、地道に”know why”を突き詰め、やがては府大の海洋出身としてオフショア案件もこなせる陸海の”ユーティリティー”エンジニアとして活躍したいものです。



バンコクでの休日
ワットアルンにて

昭和 50 年 府大船舶入学生の 卒業約 40 周年の同窓会実施報告

大学 27 期 福富 廉

昭和 50 年に府大船舶工学科に入学した私達のほとんどは、大学 27 期として今年 3 月で卒業 40 周年を迎えました。今まで何の活動もしてなかったのですが、中学や高校の同窓会活動がだんだん盛んになるにつれ、誰か何かやってくれないかと思いながら日々を過ごしておりました。そのような時に、同級生の 1 人と会食する機会があり、その後、思い切って皆の今の様子だけでも確認しようと、昨年の秋頃から情報収集を始めました。

昭和 50 年入学生 31 名の内、若きに造船所の労災事故にあった 1 名を含め 2 名は既に他界したので、情報交換ができたのは残り 29 名の内の 18 名でした。思ったほどにはいかなかったのですが、要望が多かった同窓会を 3 月 2 日（土）に梅田で行いました。そこにはうれしくも 13 名の同級生が集って、楽しいひとときを過ごしました。

我々昭和 50 年入学生は造船不況の真ただ中で入学・卒業したため、造船会社以外に就職したものが多かったうえに、せっかく造船会社に就職しても造船屋を全うできなかった者がほとんどです。

同窓会では学生時代に製図室で徹夜したこと等の思い出話の他、造船屋だけではない色々な話で大変盛り上がりました。

次回の予定は特に決めてないのですが、同窓会参加者の 1 人に大分県臼杵市で釣舟を経営している者がいて、そこで実施しようという声が高く、いつかは必ず実現したいと思っています。




昭和 50 年府大船舶入学生卒業約 40 周年同窓会にて

■----- 鷗朋 28 号の表紙絵紹介 -----■

『南仏コートダジュール』

大学 1 期 池島 彊

南仏・コートダジュール 07.3.4画 



今回、小生の絵画の中から「南仏コートダジュール」を表紙絵として使用して頂くことになりました。

大阪府立大学船舶工学科を卒業し、神戸市内の神戸ドッグ工業(株)に就職し、船舶の修理工事に従事して以来、修繕工事の技師として苦勞の連続でしたが約 40 年の永きにわたり働き、定年後は国内、海外旅行にも行き楽しみました。

今は、満 89 歳となりましたが元気で老後を過ごしています。

山崎先生退職記念講演会・謝恩会

退職記念講演会・謝恩会実行委員会 実行委員長 片山 徹（大学 41 期）

平成 31 年 3 月 16 日（土）の午後、学術交流会館において山崎哲生教授の退職記念講演会・謝恩会が開催され、山崎研究室の卒業生を中心に、現旧教員、鷗朋会会員が集まり、総勢 61 名で山崎哲生教授の門出をお祝いしました。

第一部として山崎先生のご最終講義が行われ、第二部として退職記念謝恩会が開かれました。最終講義では、山崎先生の海洋資源開発への熱い思いが語られるとともに、日本の海底鉱物資源開発に資するための技術開発に邁進する旨を宣言されました。第一部の終了にあたって、ご息女様からこれまでの感謝の言葉と花束が贈られ、少し照れくさそうにされていました。謝恩会は、実行委員長の挨拶、岩崎泰典鷗朋会会長の乾杯のご発声に続き、祝宴を催しました。山崎研究室の卒業生たちに囲まれ、懐かしい思い出話に花を咲かせておられました。宴も酣となった頃、山崎研究室の院生を中心に制作された思い出の映像紹介があり、懐かしい写真や現役生・卒業生からのビデオメッセージが披露されました。その後、卒業生を代表して、池本昌仁氏（大学 57 期）、岡西大輔氏（大学 58 期）、竹田陽亮氏（大学 63 期）から感謝の言葉が述べられ、山崎教授のご挨拶、記念品贈呈、花束贈呈と続き、鷗朋会副会長 大塚耕司教授の挨拶の後、全員で記念写真を撮り謝恩会の幕を閉じました。



山崎教授には 11 年間に亘って、本学海洋システム工学分野・課程の教育・研究にご尽力いただき、海洋資源およびその開発に関しての教育・研究とその普及に努めて頂くとともに、大学が学域制へと移る大変な時期に海洋システム工学分野をしっかりと支えていただきました。4 月以降も、本学客員研究員として 3 年間研究活動を続けられるとのことですが、どうぞご健康に留意され、今後も大所高所からのご指導、ご教示、海洋システム工学分野へのご支援をお願い申し上げます。

最後に、実行委員としてご協力をいただいた皆さま、ビデオメッセージの作成にご尽力いただいた山崎研究室の学生諸君にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

「山崎先生 退職記念講演会・謝恩会」実行委員会

実行委員長：片山徹（平成 30 年度教室主任、大学 41 期）、副実行委員長：中谷直樹（同副主任、大学 45 期）

委員：大塚耕司（大学 35 期）、坪郷尚（大学 39 期）、新井励（大学 48 期）、黒田桂菜（大学 51 期）、生島一樹（大学 57 期）、塚原洋平（大学 59 期）、古田慧（大学 60 期）、柴原正和（准教授）、二瓶泰範（准教授）、韓佳林（助教）、奥原孝平（M2）、松尾俊輔（M2）、生田恵美（山崎研秘書）、小塚由里子（同窓会事務局）



学術交流会館にて

山崎先生が教えてくれたこと

大学 57 期 池本 昌仁 (株式会社 KADOKAWA 勤務)

2019 年 3 月 16 日 (土)、大阪府立大学・学術交流会館にて山崎哲生教授の退職記念講演会・謝恩会が開催されました。山崎先生長い間、本当にお疲れさまでした。

山崎先生と数年ぶりの再会を果たし、また当時の山崎研究室の同級生、後輩とかつての話を振り返る中で、学生当時は気づけなかった山崎先生の指導教官、教育者としての姿について感じ入ることがありましたので、少し書かせていただきます。



筆者 池本様

11 年前 2008 年に海洋システム工学科の第 4 回生となった僕は、出来たばかりの山崎研究室の記念すべき第 1 期生となりました。配属を希望した理由は、山崎先生の深海開発や鉱物研究への、魂を燃やし尽くさんとするばかりの熱情でした。

深海開発という未だ本格的に人類が踏み入れたことのない分野への期待感ももちろんありましたが、それ以上に良いお年 (当時すでに山崎先生の年齢は自分の父親の年齢を超えていましたので) の男性がそこまで人生を傾けるものが何なのかを知りたくなり、配属を希望したというのが本音でした。

ただ驚くべき事に山崎先生は溢れるばかりの情熱がありながらも、それを他人に押しつけることはありませんでした。そればかりか、いつも一歩引いて学生が自ら歩く様子を尊重してくれていたと、今では強く感じます。

僕自身を含めて発足当時に山崎研に配属された学生達の研究状況を思い出してみると、研究室にはまだ先輩がおらず先行の研究内容も無かったため、研究を進めていく中で数々の分野の先生に教えを請うということが多かった状況でした。僕も実験や調査、細菌培養などで 中谷先生、石井先生、大塚先生、新井先生と多くの先生のお世話になり、研究課題の解決に没頭していました。

ただそれは山崎先生や研究室が追求したい内容とは異なる道筋に進んでいる時もあったように思います。ですが異なる分野に向かう僕に対し、驚くべきことに山崎先生は 100% の肯定で迎えてくれました。生物学的な研究内容を面白がってくれるだけでなく、海外学会で積極的に発表させ、むしろ「そのまま行けよ」と、それを煽る側にいらっしゃいました。進路に対してもそのスタンスは変わらず、その柔らかな受け止めにとっても感謝しています。

年長者や熟達した人であればあるほど、成功体験に裏打ちされた勝ち筋があり、良心を持ってそれを伝えようとしてくれる方が多いです。ですが正解を伝えるというのは長期的に見れば正解でない時もあります。何より多くの若者は結果の出る前 (時には結果が出ていても)、自分に自信がなく、新しいアイデアや新鮮な視点を簡単に発揮できません。自信がないので他者が正解を差し出せば、それに飛びついてしまう。ただそれは自ら答えを出そうとする意志を折る、恐ろしく甘い罠です。目の前の石ころをどかすのではなく、その道をそのまま進めと、背中を押してくれた山崎先生。学生が自ら考え、進んでいくことを望み、人としての自主性を重んじられていた。そういった山崎先生の教育方針に卒業後に強く気づかされました。

学部と大学院の 3 年間、山崎先生の下で研究生活を送れたことは本当に幸せなことでした。山崎先生ありがとうございました。山崎先生は大学に残られ、ご自身の研究を続けていくとお聞きしております。健康にご留意の上、ますますの活躍をお祈り申し上げます。



当時の山崎研メンバーで

至福の 11 年を終えて

山崎 哲生 名誉教授



学生との関わりを求めて大阪府立大学に着任してから 11 年が過ぎました。前職の産業技術総合研究所においては、所属する部署の本体とは 1km ほど離れた場所で、ひとりで仕事をしていました。また、会議等をあまり行わない部署であったため、仕事場では、「今週は誰とも話さなかった」ということが結構ありました。そのため、大学からお誘いを受けた時に、毎日学生と触れ合い、話をするのに、大きな魅力を感じたのは確かです。着任後、それを実践すべく、1 日 1 回は研究室所属学生の居室を訪ねて、何かしら会話を交わすことにしました。当初は奥野研、大塚研との合同の学生居室であったので、いつ訪ねても誰かは学生がいる状態でした。他愛もない話(例えば、「また泊まり込んでるのか。臭うぞ」といった会話)をすることが楽しかったのです。学生居室が研究室毎に分離された後も、居室には学生がいる時間が多く、1 日 1 回は訪ねて言葉を交わすということが続きました。講義を行うこと、会議に出席することも含めて、研究所勤務時代とは全く異なる仕事場がありました。さらに、事務職員の生田

さんが私の居室で執務したこともあって、こちらから出かなくても、誰かが私の居室を訪ねてきて言葉を交わすことも多くありました。「今週は誰とも話さなかった」という過ごし方は遠い過去の記憶となりました。

3 月 16 日の退職記念講演会・謝恩会に集まっていた卒業生のみなさんと顔を合わせた時、実はまず思い出したことの多くは、卒業研究や修了研究の内容ではなく、それぞれと交わした他愛もない話のことでした。多分、卒業生のみなさんとの関わりがスタートが、他愛もない話であり、後から卒業研究や修了研究が登場してきたからではないかと推察します。もちろん関わりがスタートが研究室配属後ではなく、それ以前の講義での関わり、AO 入試面接での受け答えなどであれば、それをまず思い出さことになります。これらの記憶が脳裏を駆け巡って、感無量状態だったのが、3 月 16 日でした。当日、すべてのみなさんと言葉を交わすことはできませんでしたし、交わしたとしても、他愛もない話にとどまり、思い出深い話にならなかったのは、多数の記憶が思いっきり駆け巡っていたためでした。

多数の記憶が駆け巡った 3 月 16 日も含めて、大阪府立大学で過ごした 11 年は終わることになりましたが、卒業生のみなさん、また、大学で出会ったみなさんとの関わりは終わるのではなく、今後も続いて欲しいと願っています。そして、今後 4 年間は、非常勤研究員また客員研究員として、引き続き大学で勤務することになりました。「今週は誰とも話さなかった」という過ごし方が戻ってこないように、みなさんとの関わりを大切にしていきたいと考えています。大学訪問時には、是非ひと声お掛けください。



生田さんと山崎先生



当日会場にて

新任のごあいさつ

海洋システム工学分野 助教 韓 佳琳

2018年10月1日より、大阪府立大学大学院工学研究科海洋システム工学分野の助教に着任いたしました、韓 佳琳（カンカリン）と申します。出身地は中国の河南省です。この場をお借りし、簡単ではございますが、自己紹介をさせていただきます。

略歴

2007年7月 中国・深圳大学・数学と応用数学専攻 卒業
2010年7月 中国・北京工商大学・経済学 修士課程 修了
2013年9月 東京大学大学院・工学系研究科・システム創成学専攻 修士課程 修了
2017年3月 東京大学大学院・工学系研究科・システム創成学専攻 博士課程 修了
2017年4月 東京大学・生産技術研究所・特任研究員 着任（北澤研究室）



学生時代（中国編）

私は1983年に中国河南省に生まれ、姉二人を含めて5人家族です。私は小さい頃から、工作や機械の分解・修理に興味がありました。小学生の時には、家にあった時計の中身を見るために、分解しました。残念ながら、バネがバラバラになり元の状態に戻りませんでした。中学生の時には、家にある電子ピアノや、テレビ、洗濯機などの蓋を次々に開けて中を見て、そのしくみや構造に興味を持つようになっていました。高校時代には、教育者になりたいという願望が芽生えました。大学では数学の専門課程に進み、高校の教師免許も取得しました。大学の4年間は家庭教師のアルバイトを行い、知識を分かりやすく他人に教えるということは、同時に自分もより深くその知識を理解することになると気づきました。

学生時代（日本編+オランダ編）

日本に来た後は、勉強と研究が中心の生活でしたが、いつか教育者になりたい気持ちはずっと心の中に持っていました。私は修士課程になってから海洋工学を勉強し始めました。知識の不足分を補うため、博士課程の時にデルフト工科大学で1年間、基礎からじっくりと勉強しました。多様な文化の中での生活も深く体験しました。



図1：自作水ロケット大会のチームメンバー



図2：サスペンション船の実海域実験風景

大学院の研究テーマはサスペンション船の動揺制御特性と発電特性に関する解析です。電磁サスペンションを持つ船の研究開発には、海洋工学だけでなく制御工学、電子工学など幅広い知識が必要で、指導教員北澤大輔教授、技術員板倉博氏、アドバイザー元日産自動車エンジニア前田輝夫氏と廣田幸嗣氏から貴重なサポートとコメントを頂き、開発と水槽実験を並行して行いました。時には終了後にこれら関連分野を学習し、波動についてはより深く勉強しました。

勉強、教育と研究の考え

学位を取得しても、勉強は一生続く事と思っています。現在の社会で、新しい技術とニーズはより早く発展しています。それに対して、早く新しい知識と技術を身につけて、教育と研究に役を立つのは大事であると考えます。

今後の抱負

学んできた制御工学や電子工学と、これまでに培われてきた海洋システム工学を繋ぎ、自律運航船、サスペンション浮体、海底開発用ロボット、波エネルギー吸収装置など、海洋をよりスマートに利用し保全していく技術の研究と開発を行っていくことで、海洋システム工学分野の発展に力を尽くしていく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



博士・修士論文ならびに卒業論文のテーマ

博士論文 (博士後期課程)

(指導教員)

澤野 陽介	(馬場)	重力流の発達過程における力学的機構に関する基礎的研究
-------	------	----------------------------

修士論文 (博士前期課程)

(指導教員)

青木 雅明	(二瓶)	TLP 型浮体式風車の制御による運動特性に関する研究
家下 輝也	(柴原)	粒子法-FEM 連成解析を用いた FSW に関する力学的検討
臼杵 龍太	(柴原)	熱切断による変形シミュレーション技術の確立
遠藤 昂彦	(坪郷)	フラップ式造波機による造波に関する研究
奥原 孝平	(山崎)	海底熱水鉱床開発における統計的手法を用いた経済性検討
川瀬 充弘	(柴原)	海洋構造物格点部に及ぼす局部 PWH T の効果に関する検討
草薙 一真	(二瓶)	多基連結型縦軸浮体式洋上風車の挙動に関する研究
徐 天瀾	(柴原)	レーザ多層溶接における層間オーバーラップ率による低温割れの影響に関する検討
杉原 悠介	(馬場)	2 層に貫入する重力流の発達過程に関する基礎的研究
立花 雅樹	(新井)	超音波流速計を用いた実海域における複数種類の懸濁物質濃度の計測手法
張 辰方	(二瓶)	自律型四胴ロボット船の航走時船体抵抗に関する実験的研究
津川 浩哉	(馬場)	軸対称重力流の発達過程に関する実験と計算
藤原 浩晃	(坪郷)	36cm の模型船を用いた抵抗推定法の考察
本藤 裕佑	(柴原)	凝固割れ解析手法の高度化と割れ防止法に関する提案
松尾 俊輔	(山崎)	海底熱水鉱床採掘機の走行制御手法の基礎的検討
松岡 雅紀	(片山)	幅広浅喫水船の横揺れ減衰力に関する研究
山田 祐介	(柴原)	線状加熱方案自動作成システムの開発

卒業論文

(指導教員)

秋田 悠貴	(新井)	主成分分析を用いた大阪湾水質定点自動観測データに見る水質の時間的・空間的特徴
芦田 峻	(柴原)	サイドビード割れ試験についての力学的検討
岩本 雄太郎	(坪郷)	造波抵抗理論に基づく 4 胴船の船型開発
内村 太郎	(柴原)	スポット溶接時における LME の発生に関する力学的検討
沖見 優衣	(柴原)	FCB 溶接時における終端割れ防止策の検討
片山 駿	(馬場)	3 種の流体を用いた重力流の相互作用に関する研究
河添 修平	(片山)	滑走艇の流体力推定への CFD 適用性に関する研究
河邊 拓樹	(二瓶)	三胴船の配置変更に伴うエネルギー消費低減に関する研究
勘角 真依	(片山)	横波中横揺れの短期予測に関する研究
木村 勇揮	(馬場)	重力流の進行と自己相似性に対する外部攪乱の影響
鈴木 友	(有馬)	ダイバーモニタリングのための眼振検出システムの構築
高橋 祐翔	(片山)	サスペンションを用いた小型ボートの乗り心地向上に関する研究
仲内 悠記	(山崎)	ポーリングデータを利用した海底熱水鉱床の採掘計画の検討と経済性評価

中川 翔陽	(新井)	種類の異なる懸濁物質が超音波流速計の散乱強度データに及ぼす影響に関する基礎的検討
中原 颯太	(有馬)	テキストマイニングによる海洋政策の分析
長井 和洋	(中谷)	幸福度を指標とした海洋生態系サービスの定量的評価の試み
永里 勇人	(柴原)	加熱矯正によるひずみ取りに関する検討
橋詰 光	(柴原)	強化学習による残留応力を低減させる溶接順序についての検討
林 和幸	(山崎)	レアアース泥とマンガン団塊の複合開発の経済性評価
林 大貴	(中谷)	多変量解析を用いた数理モデル決定プロセスに対する支援手法の検討
平田 裕之	(新井)	紫外吸光度に粒子フィルタを用いた海水の栄養塩濃度の推定法に関する基礎的検討
深堀 幹人	(新井)	海水の複素誘電率に関する基礎的調査
福造 博	(有馬)	水中における心電図計測手法の提案
藤崎 真太郎	(二瓶)	スナイプ級ディンギーのピッチ角及びヒール角による船体抵抗への影響に関する研究
辺見 直樹	(山崎)	機械式揚鉤によるコバルトリッチクラスト開発の経済性評価
光成 茉弥	(中谷)	最適変換法を用いた因子間の構造解析手法に関する基礎的研究
宮澤 佳奈	(有馬)	高速旅客船と大型鯨類の衝突回避に関する基礎的研究
森 壮太郎	(馬場)	一定傾斜面における重力流に関する研究
森本 章裕	(坪郷)	船体ハル構造の梁フレーム構造モデル化における内力と固有振動の解析について
森本 大嗣	(片山)	浅海域用姿勢安定装置付きスパーブイの係留系に関する研究
山上 航太	(片山)	滑走艇の高速旋回性能に関する研究
山手 龍之介	(馬場)	軸対称重力流に対する壁面摩擦および水路形状の影響
吉松 幸紀	(馬場)	側壁が重力流に及ぼす影響に関する研究
小森 智己	(二瓶)	一点係留ブイを適用した浮体式風車の風・波中の挙動に関する研究
佐々木 敬涼	(有馬)	サンゴ礁モニタリングシステムの開発 -画像解析によるサンゴ被度の算出-
吉田 樹	(有馬)	海洋生態系評価のための海洋モニタリングシステムの開発
竹内 太志	(坪郷)	レイリー仮想摩擦係数を用いた粘性圧力抵抗の簡易推定法
生田目 崇貴	(中谷)	藻場モニタリングのための深層学習を用いた画像判別手法の検討
田中 一光	(山崎)	海底熱水鉱床採鉱作業におけるステレオ画像解析による鉱石選別効率の把握
牧 寛	(中谷)	水産資源のモニタリングのための画像解析
西浦 海人	(馬場)	界面準静的過程における重力流のモデル化

各賞受賞者



杉原 悠介 君
山田 祐介 君
光成 茉弥 君
小森 智己 君
沖見 優衣 君
勘角 真依 君

海洋システム工学分野最優秀論文賞
海洋システム工学分野優秀論文賞
白鷺賞
海洋システム工学課程最優秀論文賞
海洋システム工学課程優秀論文賞
海洋システム工学課程優秀論文賞

日本船舶海洋工学会奨学褒賞
日本船舶海洋工学会奨学褒賞



2018 年度修了生・卒業生就職先一覧

大学院前期課程修了

青木 雅明	新日鉄住金エンジニアリング(株)	立花 雅樹	日産自動車(株)
家下 輝也	(株)竹中工務店	張 辰方	(株)NTT ファシリティーズ
臼杵 龍太	TOTO(株)	津川 浩哉	ダイハツ工業(株)
遠藤 昂彦	(株)村田製作所	藤原 浩晃	(株)クボタ
奥原 孝平	日立造船(株)	本藤 裕佑	コマツ (株式会社 小松製作所)
川瀬 充弘	大阪ガス(株)	松尾 俊輔	シャープ(株)
草薙 一真	(株)神鋼 エンジニアリング & メンテナンス	松岡 雅紀	ジャパンマリンユナイテッド(株)
徐 天瀾	三菱自動車(株)	山田 祐介	(株)シマノ
杉原 悠介	(株)デンソー		

学部卒業

秋田 悠貴	関西テレビ放送(株) (2020 年度入社)	深堀 幹人	キャノン(株)
芦田 峻	大阪府立大学博士前期課程	福造 博	大阪府立大学博士前期課程
岩本 雄太郎	ダイハツディーゼル(株)	藤崎 真太郎	他大学
内村 太郎	大阪府立大学博士前期課程	辺見 直樹	常石造船(株)
沖見 優衣	大阪府立大学博士前期課程	光成 茉弥	大阪府立大学博士前期課程
片山 駿	大阪府立大学博士前期課程	宮澤 佳奈	大阪府立大学博士前期課程
河添 修平	大阪府立大学博士前期課程	森 壮太郎	大阪府立大学博士前期課程
河邊 拓樹	他大学	森本 章裕	日立造船(株)
勘角 真依	大阪府立大学博士前期課程	森本 大嗣	大阪府立大学博士前期課程
木村 勇揮	大阪府立大学博士前期課程	山上 航太	大阪府立大学博士前期課程
鈴木 友	川崎重工業(株)	山手 龍之介	大阪府立大学博士前期課程
高橋 祐翔	大阪府立大学博士前期課程	吉松 幸紀	
仲内 悠記	大阪府立大学博士前期課程	小森 智己	大阪府立大学博士前期課程
中川 翔陽	日本海事協会	佐々木 敬涼	大阪府立大学博士前期課程
中原 颯太	大阪府立大学博士前期課程	吉田 樹	大阪府立大学博士前期課程
長井 和洋	他大学	竹内 太志	国交省造船職員
永里 勇人	大阪府立大学博士前期課程	生田目 崇貴	SKY(株)
橋詰 光	大阪府立大学博士前期課程	田中 一光	香里ヌヴェール学院 教員(数学)
林 和幸	トヨタ自動車(株)	牧 寛	
林 大貴	大阪府立大学博士前期課程	西浦 海人	
平田 裕之	日本海事協会		

鷗朋会原稿募集!

鷗朋会では、**企画・原稿・写真・イラスト**の募集を行っております。
近況報告、同級生との同窓会開催顛末、地元の紹介、技術的なレポートなど自由なテーマで、原稿を募集しています。是非、事務局までご投稿下さい!

送付先: 鷗朋会 (けきほうかい) 事務局
〒599-8531 大阪府堺市中央区学園町 1-1 大阪府立大学大学院工学研究科
海洋システム工学分野気付
TEL/FAX 072-254-7461 Email: doso@marine.osakafu-u.ac.jp



大阪府立大学工学部 賜朋会 第 67 回理事会報告

□日 時： 2019年5月25日（土）16:00～17:00

□場 所： 海洋システム工学分野会議室

□出席者： 岩崎会長（大20期）、藤原副会長（大24期）、大塚副会長（大35期）、城野（大8期）、杉山（大12期）、吉久（大13期）、西田（大17期）、松本（大19期）、三宅（大30期）、有馬（大37期）、坪郷（大39期）、片山（大41期）、中谷（大45期）、新井（大48期）、黒田（大51期）、生島（大57期）、勘角（大67期）、山上（大67期）（以上18名 敬称略）

□資 料： 賜朋会 第 67 回理事会 議事次第

資料（1）2018年度会計報告書、会計監査報告 資料（2）編集委員会報告
 資料（3）平成30年度第2回大阪府立大学校友会 理事会・評議員会 出席報告
 資料（4）「山崎先生退職記念講演会・謝恩会」収支報告書
 資料（5）賜朋会役員名簿 資料（6）「賜朋会」郵送停止者
 別紙 「賜朋会」郵送停止候補者（会議終了後回収）

片山理事より開会の辞、岩崎会長より挨拶、議長に大塚副会長が推薦され承認された。

□議 事：

(1) 報告事項

a) 2018年度会計中間報告（資料（1））

中谷理事より資料に基づき2018年度会計報告が行われた。工学部同窓会からの援助金は2018年度で終了する。杉山理事、吉久理事より2018年度会計監査報告が行われ、適正に管理運営されていることが報告された。

b) 編集委員会報告（資料（2））

三宅理事より資料に基づき同窓会誌の発行状況および計画に関する報告が行われた。

c) 校友会理事会報告（資料（3））

岩崎会長より資料に基づき平成30年度第2回校友会理事会に関する報告が行われた。若年層会員の積極的な参加が課題となっており、キャリア関係のイベントと関連させることやホームカミングデーの実施方法などの工夫が必要との意見が出た。

d) 山崎先生退職記念講演会・謝恩会報告（資料（4））

中谷理事より資料に基づき山崎先生退職記念講演会・謝恩会の会計報告が行われた。「ご寄付」8000円を会費に含める修正の後、残金19,321円については賜朋会に寄付されることが承認された。

(2) 協議事項

a) 新理事推薦に関する件

片山理事より新理事推薦（勘角氏・山上氏（大67期））の提案があり、承認された。

b) 郵送停止者に関する件（資料（6））

岩崎会長より「会費滞納者に関する細則」に従い、別紙「郵送停止候補者」リストに基づき、2019年4月1日以降発行物の郵送停止を行うことについて提案があり、承認された。尚、可能な限り各理事から上記候補者に声掛けを行い、今後も会費納入を促す方針とする。

c) その他（資料（5））

岩崎会長より、関西圏外在住の理事や連絡がつかない理事がいることを踏まえ、理事メンバーの見直しについて提案があり、承認された。定年制も含めて今後検討する。理事116名中22名が関西圏外、19名が行方不明である。

（2019年5月現在）。

片山理事より閉会の辞。

以上
文責 黒田桂菜

2018年度 会計報告書 2018.4.1-2019.3.31			
収入の部		支出の部	
摘要	決算	摘要	決算
前期繰越	473,211	振込手数料	31,662
		通信費	360,891
同窓会会費	1,294,000	役務費	627,200
		事務費	91,054
理事会会費	15,000	印刷費	107,042
雑収入(利息)	1	会議費	38,765
		雑費	0
援助金	151,833	HPアルバイト	30,000
(工学部同窓会より)			
同窓会活動支援金	150,000		
寄付	101,000		
小計	1,711,834	小計	1,286,614
		次期繰越	898,431
総計	2,185,045	総計	2,185,045

会 計 監 査

大阪府立大学工学部 賜朋会殿

監事 杉山和雄 吉久英昭

2018年度の同窓会会計につきまして、監査の結果、適正に管理運営されていることを確認いたしましたのでご報告いたします。

ここもお読み下さい！

皆様がお手元に大切に保管されている読み終えた書籍が学生達の活動支援事業の資金に大きく化ける、という『古本募金』についての紹介とお願いです。

①申し込み電話と書籍の箱への梱包だけの簡単な手続きで、読み終えた書籍を発送段取りするだけです。

②宅配業者によって集配された書籍の査定相当額が、大学に寄付されます。

普段から、「処分したい本はあるが、古本屋に持ち込むのは面倒だ。」「買い取り業者を自宅に招き入れるのは不安だ！」とっておられる方にとって、古本募金は結構役立つ大学活動だと思います。本活動を積極的に支援したいと思います。

校友会からのお知らせ

読み終えた本を
母校のために寄附しませんか

古 本 募 金



大阪府立大学校友会

〒599-8531

大阪府堺市中区学園町 1-1

TEL 072-254-8143 (直通) FAX 072-254-9129

E-Mail office@opucr.osakafu-u.ac.jp

大阪府立大学古本募金とは

本古本募金は、卒業生・在学生・保護者・教職員・一般の方々から書籍（CD・DVD等を含む）をご寄附いただき、業者による買い取り金を写真例のような学生たちの活動を支援する事業等に役立てる活動です。

大阪府立大学古本募金の流れ

1. 書籍類を段ボール箱に詰め、買取業者に電話またはネットで連絡。
2. 宅配業者が集荷に来訪。5点以上ならば送料不要。
3. 買取業者で価格査定、買取金額を寄附者に連絡。
4. 買取業者が大阪府立大学校友会古本基金口座に送金。



卒業生による就職セミナー



学生と卒業生による懇親会

STEP 1 梱包

不要になった書籍を段ボールに詰め、申込書をご記入の上、本と一緒に入れて下さい。

※ダンボールが複数になる場合でも、申込用紙は1枚で構いません。

※5冊以上から、送料はかかりません。

STEP 2 お電話 インターネット

提携会社 VALUE BOOKS 0120-826-292 に電話。

『古本募金』の申込み」と、お伝えください。

※電話受付時間 月～土/10:00～21:00 日/10:00～17:00

※宅配業者がご指定の時間に伺います。

インターネットでの申し込みは、こちらからできます。

→ <https://www.furuhon-bokin.jp/osakafu-u/apply/>

STEP 3 寄付

提携会社 VALUE BOOKS が買取査定し、買取金額を寄附者に連絡します。

その買い取り金額は、「大阪府立大学校友会」に寄付されます。

※古本の価値は需要と供給で決まるため、寄付していただいた本の状態が良くても値段がつかないこともしばしばあります。そのため、古書の価値が高いと思われる本のご寄付はお控えください

※大阪府立大学古本募金では、そのように値段がつかない本を、運営会社の株式会社バリューブックスを通じて、高齢者社会福祉施設や海外の研究機関等へ寄贈することで、社会に役立てられるようリユースにもつなげております。

- 詳しくは、同封のチラシまたは、こちらをご覧ください。
→ <http://www.furuhon-bokin.jp/osakafu-u/>

皆様のご寄附は、「大阪府立大学」の
学生支援事業に役立てられます。

■ ホームカミングデー2019 ウェルカムパーティー 開催のお知らせ

開催年月日：令和元年11月3日（日）白鷺祭 最終日

開催時間（予定）：12時～14時

場所：中百舌鳥キャンパス 体育館

形式：立食形式の昼食会

飲食費：3,000円（原則 コンビニからの事前振込）

- ・ 詳細は決まり次第、校友会ホームページ、メールマガジンにてお知らせします。
- ・ ご不明な点がございましたら、校友会事務局までお問い合わせ下さい。

電話：072-254-8143 Mail: office@opucr.osakafu-u.ac.jp

■ 鷗朋会からのお知らせ

■ 2019年度 海洋システム工学分野 教員一覧

海洋システム工学分野の2019年度における研究・教員体制を、下表にてお知らせ致します。

研究室名	海洋システム計画学 有馬研究室	海洋輸送工学 片山研究室	海洋空間利用工学 中谷研究室	海洋環境工学 馬場研究室	海洋システム計画学 新井研究室	海洋空間利用工学 柴原研究室	海洋環境工学 坪郷研究室	海洋資源工学 二瓶研究室
教授	有馬 正和	片山 徹	中谷 直樹	馬場 信弘				
准教授					新井 励	柴原 正和	坪郷 尚	二瓶 泰範
助教		生島 一樹	韓 佳琳					

■ 会費納入のお願い

いつも同窓会活動にご理解、ご協力を賜りまして誠に有難うございます。

2019年度（2019年4月～2020年3月まで）の会費納入をお願いいたします。同封の振込用紙をご利用いただくか、りそな銀行、郵便振替口座にご送金下さい。なお、すでに会費を納入いただいている方には、請求書を同封しておりません。また、払込みの手間が省ける口座振替もご利用いただけます。所定の口座振替届書の提出が必要ですので、ご希望の方は事務局までメール、電話、FAX等でご連絡下さい。後日、口座振替届書を郵送させていただきます。

なお、今年度から「鷗朋会」年会費は、**3,000円**です。引き続きご理解、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

■ 海洋システム工学課程 AO入試のご案内

海洋システム工学課程では、H18年度入試からAO入試（自己推薦型入試）を行っております。

鷗朋会会員の皆様には、ご家族・お知り合いの方々に、この入試制度をご紹介していただきたく、AO入試のチラシを同封させていただきました。入試内容及び説明会の詳細はチラシをご覧ください。AO入試に対しては特別な準備は必要なく、海洋に関する工学への強い情熱と、最低限の基礎学力があれば受験することができます。受験機会の一つとして、ご紹介していただければ幸いです。

訃報

旧職員	田原 裕介 氏	(2019年1月25日)	大学4期	池田 哲男 氏	(2018年1月7日)
造船1期	巖野 楠雄 氏	(2019年5月6日)	大学7期	天野 正三 氏	(2018年11月9日)
造船4期	澤山 耕作 氏	(2018年12月15日)	大学9期	幅田 皎 氏	(2018年7月)
造船6期	寺井 仁郎 氏	(2019年1月5日)	大学19期	橋川 元一 氏	(2017年9月6日)

本会はこの訃報に接し、謹んで哀悼の意を表します。